

地域の暮らしを支え続けた橋に感謝 鴨橋ライトアップ

SCENE 1



昭和2年に現在のコンクリートの橋として架けられ、86年間にわたり地域の暮らしを支えてきた鴨橋が、豪雨による浸水被害の軽減を図るために行われている県事業・厚狭川激特事業で新しく架け替えられます。今年の秋から撤去工事が着手される予定の鴨橋。現在の橋で迎える最後の新年に向け、12月19日から1月6日まで橋がライトアップされました。12月22日・23日には鴨橋ライトアップ鑑賞会も開かれ、地元をはじめこの話を聞いて県外から訪れた人など多くの人が集まり、甘酒や抹茶で暖を取りながら日没を待ちました。日も暮れ灯りがともされると、厚狭川に映し出される鴨橋を感慨深げに眺めていました。

SCENE 2

ふるさとを応援！ オートレース選手会サポート寄附

12月19日、山陽オートレース場で(社)全日本オートレース選手会山陽支部の田方支部長から、支部に所属する選手66人分213万円のサポート寄附をいただきました。受け取った白井市長は「寄附金の総額は過去5年間で1,000万円を超えている。大切に使っていきたい。」と感謝の言葉を述べました。



SCENE 3

活気あふれる 平成25年初せり

山陽小野田市地方卸売市場の平成25年初せりが1月5日に行われ、せり人や仲買人など関係者約40人が一本締めを行い、新年の業務開始を祝いました。市場にはとれたての地元産の野菜が並び、威勢のいいせり声とともに次々とせり落とされていきました。